

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	森林整備課長 前島 和弘	電話番号	0852-22-5173
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	治山事業		
目的	(1) 対象	県民（地域住民）	
	(2) 意図	山地災害の防止対策により森林を整備し、集中豪雨、台風、地震等の発生時に県民の生命・財産等への被害発生を未然に防止する	
事業概要	山地災害から県民の生命・財産を保全するとともに、水源のかん養、生活環境の保全・形成、地球温暖化防止等を図るため、山地災害危険地区等において溪間工や山腹工などの治山施設（地すべり防止施設を含む）の設置や森林の整備等を実施する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	土砂災害から保全される人口（累計）	目標値	78,846.0	79,086.0	79,326.0	79,566.0	人
	式・定義	山地災害危険地区において、治山事業（地すべり防止事業を含む）により整備した箇所の保全される人口	取組目標値					
		実績値	78,606.0					
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,941,643	1,914,539
うち一般財源 (千円)	65,114	75,927

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

○治山事業により土砂災害から保全された人口は78,606人（H26末778,306人+300人）。  
 ○山地災害危険地区14,777箇所（全国3位）に対し、251箇所で治山事業（地すべり防止事業を含む）を実施し整備を行ってきたが、整備率は35.5%と低位な状況である。  
 ○山地災害危険地区の種別整備率  
 ・山腹崩壊及び崩壊土砂流出危険地区は14,634箇所に対し5,188箇所を整備し、整備率35.5%。  
 ・地すべり危険地区は143箇所に対し63箇所を整備し、整備率44.1%。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

山地災害危険地区において25箇所の整備を行い、受益者300人の安心安全が図られた。  
 （受益者人数：危険地区数×4戸×3人/戸）  
 ・行政、地域住民、山地防災ヘルパー等との協働による山地災害危険地区や治山施設の巡視・点検、小・中学生への防災学習会（出前講座）等の取り組みの推進により、防災に関する住民意識が高まってきている。  
 （地域の森パトロール：6回、治山アドプト：1地区（10人参加）、出前講座：3回（約500人参加））

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・目標値は達成しているが、依然として山地災害危険地区の整備率が低い
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・公共事業予算の減少
  - ・老朽化施設の補修・更新費用の増大
- ③原因を解消するための「課題」
- ・事業の重点化
  - ・事業費の確保
  - ・地域における防災力の向上（ソフト対策）

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・山地災害危険地区の危険度・緊急性を的確に把握し、危険度等に応じて事業の重点化を図り、治山施設の設置等のハード対策と防災情報等の提供による警戒避難体制の整備や山地防災ヘルパーらによる施設点検等のソフト対策を適切に組み合わせることで総合的に治山事業を実施する。  
 ・コスト縮減による事業費確保に努めるとともに、既存施設を適正に維持管理することで施設の長寿命化を図り、ライフサイクルコストの低減と更新費用の軽減・平準化に取り組む。  
 ・山地防災ヘルパー等ボランティア団体による治山アドプト活動・施設点検や防災学習会等を実施し、地域住民との防災情報の共有化を図り、地域における防災力の向上・強化に取り組む。

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）